

西尾梨「幸水」の出荷スタート！

8月上旬のピーク時には1日6トンを集荷、新たに贈答箱製作



西尾市では7月26日より、西尾梨「幸水」の出荷が始まります。

市内生産量の半数以上を占める「幸水」は盆前の8月8日から10日にかけて最盛期を迎え、1日あたり約1,100～1,200ケース(1ケース5kg)を出荷します。

【作柄】今年は春先の気温が高く、開花は平年に比べて10日ほど早かったものの、4月の夜温が低いこともあって3、4日前倒して出荷が始まる予定です。また雨が少なかったため、小玉傾向も少し見受けられますが、現在のところ病害虫の発生も少なく、例年並みの仕上がりが。梅雨明け(7月下旬)以降の十分な日照量と高温で、糖度はさらに高まる見込みです。

◆ 収穫風景 取材対応日

【日時】8月2日(火)9時55分集合

【集合場所】JA西三河あぐりセンター小牧
JA-SS寄りの駐車場
(西尾市吉良町小牧梶見堂35番地)



生産者による収穫風景のイメージ

※集合後、収穫を行っている梨農家さんのもとへ(吉良町)へご案内します。

※取材される報道機関の方は、JA西三河企画課の尾形までご連絡ください。

※雨天等天候不順の場合、収穫を行わない場合があります。その場合、事前に取材のご連絡を頂いた報道機関の方にはこちらからご連絡いたします。

◆ 贈答用3キロ箱を新たに作りました！

今シーズンより西尾梨の特徴である“有袋栽培”が全面に伝わるデザインにし、安全・安心な西尾梨のPRにつなげていきます。

このデザインが
西尾梨の目印!!



地元で採れた旬な味を
地域に届けています！

◆ 産直店舗による「西尾梨」の販売

【期間】8月2日(月)～9月上旬頃まで

【場所】・西尾市憩の農園
・市内のAコープ4店舗

【取扱品種】※1ケース3kg・5kg入り
「幸水」、「豊水」、「あきづき」、「新高」



【お問い合わせ・ご連絡先】

JA西三河(西三河農業協同組合)

〒445-0073 愛知県西尾市寄住町下田15 企画室企画課 広報担当: 尾形

TEL: 0563-56-5214 担当者携帯: 070-1414-6818

HP: <http://www.ja-nishimikawa.or.jp/> Eメール: kikaku@ja-nishimikawa.com

※ このニュースリリースは、西尾市の記者室在籍報道機関およびJAグループ愛知記者会あてに発出しています。また、同内容をJA西三河ホームページの「報道機関向け資料(ニュースリリース)」ページにも掲載しています。

安全・安心でおいしい「西尾梨」



《西尾梨の特長》

1. 有袋栽培 ★外観を美しく、安全安心!

産地全体で有袋栽培を行っているのは西三河地域で西尾市のみ！
梨ひとつひとつに袋がけを行い、収穫まで大切に育てます。

⇒「袋がけ」により、果皮を美しく仕上げるとともに、
病虫害被害を抑え農薬使用量・回数を減らします。

2. 産地全体で取り組むIPM(総合的害虫管理)

こうしんかくらんざい

● 交信攪乱剤(性フェロモン剤「コンフューザーN」) ★環境に優しく!

性フェロモン剤の設置により、交尾を連続的に阻害し交尾率を低下させて害虫「ナシヒメシクイ」の繁殖を抑制。
害虫の発生を抑えることで農薬剤費と労働力の低減につながります。

● 虫をもって虫を制す!

「バンカーシート」の活用で天敵を利用

露地ナシにおけるバンカーシートの活用は全国的にも珍しく、東海3県では西尾市と豊田市で2018年に初めて試験を実施！農薬の効き目が低下し「ハダニ」被害で苦勞する農家がたくさんいることを背景に、西尾梨の安定生産に向けて「ハダニ」対策に力を入れています。

「ハダニ」を捕食する天敵「ミヤコカブリダニ」を農薬や環境変化の影響から保護し、増殖・放出する資材「バンカーシート」を活用！土着天敵と天敵製剤を組み合わせることにより、農薬散布回数が減り、コスト低減や労力削減につながっていきます。

※IPMとは、化学農薬をできるだけ用いずに、輪作体系や抵抗性品種、熱による消毒や機械などを用いた物理的な防除、天敵やフェロモンの利用なども組み合わせる総合技術。



バンカーシート設置のようす(ナシ)



産地全体で“環境に優しい防除”に努めて
安全・安心な「西尾梨」を生産しています！

【生産者部会情報】

名称：JA西三河梨部会(市川治部会長)

部会員数：59名

耕作面積：約16.5㌧

年間生産量：87.6トﾝ ※JA西三河梨部会による共選出荷のみ(2020年度)

主な出荷品種と収穫時期：

「幸水」…51%、7月末～8月上旬

「豊水」…31%、8月下旬～9月中旬

「あきづき」…8%、9月中旬頃

「新高」…10%、9月中旬～9月末

流通：あぐりセンター高高原では朝・夕の1日2回生産者から集荷。

安城市の選果施設へ運び、等階級別に分けられたのち、主に県内市場へ出荷しています。